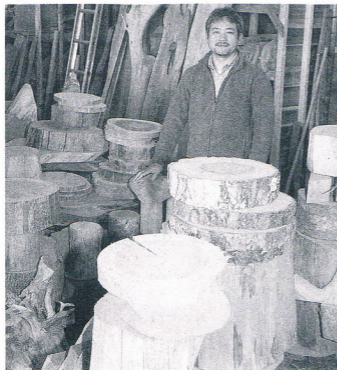


木工振興 新商品コンペ

丹波の業者など企画

丹波市内の木工所などで作る実行委員会が「たんばウッドプロダクトデザインコンペ」を実施する。ユニークなアイデア、デザインを一般から募り、独自の木材製品を作るのが狙い。書類審査によって優秀作品を選び今年中の商品化を目指す。

(丹波通信部 田中聡)



コンペを通じ丹波市産木材の新商品につなげたいと話す能口実行委員長

木工所の多くが、消費者に直接販売するルートを持たず、卸業者の下請生産を行っていることから、製品の開発能力を高め消費拡大につなげようと初めて実施する。実行委員会は市内の4つの木工所の代表が中心となつて組織。大田尚作・神戸芸術工科大デザイン学部長、県立丹波年輪の里館

賞1人(副賞30万円)と入賞者2人(副賞5万円)を決定する。受賞者のデザインを基に試作品を完成させ3月15日～31日から、丹波市柏原町田路、県立丹波年輪の里で展示する。

能口秀一実行委員長(46)は「製品化が実現した場合

優秀作 今年中に製品化

長などが審査員を務める。丹波市の山林で主流を占める杉、ヒノキをはじめ、栗、ケヤキ、コナラ、モミ、イチヨウなどの雑木を活用し、木工業者の発想を超えたユニークなアイデアを期待している。

一定割合のロイヤルティも支払う。若い人らの大胆な発想を期待し、コンペの継続を目指す」と話している。

応募、問い合わせは、丹波市氷上町賀茂、有限会社ウッズ内、コンペ実行委員会事務局(0795・88・9635)へ。

2月10日まで企画提案を書類で受け付け、同23日に